

# 暮らしの広場



**Q** 検診のマンモグラフィで石灰化を指摘され、精密検査で非浸潤性乳管がんと言われました。

**A** 非浸潤性乳管がんは乳房内に広がりますが、浸潤しないため原則転移することはありません。そのため乳房内に存在する病巣を完全に切除すれば、百パーセント治癒が可能ながんです。

最近検診マンモグラフィの増加により、非浸潤性乳管がんと診断されることが増えてきました。手術前針生検(腫

## 乳腺 Q&A

### 非浸潤性乳管がんとは

瘍の一部を採取)で非浸潤性乳管がんと診断されても、手術後最終病理診断で浸潤がんに変更となる場合が2割程度あります。

そのため手術は、がんの広がりにあわせて乳房切除術または乳房温存術を行い、腋窩リンパ節に関してはセンチネルリンパ節生検を行うことが多いです。乳房温存術後には、残存乳房への放射線照射は行わなければなりません。ホルモン剤を投与することはありますが、抗がん剤は行いません。

(阿知須共立病院診療部長・外科部長、工藤明敏)

**Q** 手術した方の腕がむくんでいるのですが。

**A** 腋窩リンパ節を広く切除するとリンパ液の流れが悪くなり、上肢がむくんでくることがあります(リンパ浮腫)。むくみを軽減させるには、手先から脇の下に向かって直線的にやさしくなでるようにマッサージを行ってください。速いテンポで強く刺激

したり、体重をかけて強く押すことは禁物です。腕の皮膚が赤く熱感を示してきたら、細菌感染の可能性があります。感染が起るとむくみは悪化するので、けがや虫刺されには注意してください。感染が起った場合は

マッサージ中止です。潮干狩りや庭の草取りは台所の手袋を着けて、感染を予防してください。重い荷物が入ったシヨルターバッグなどは、手術を行っていない方の肩にかけてください。

(同作業療法士、藤永真由美)

**Q** 乳房を切除しました。

どのような下着を選ばいいでしょうか。

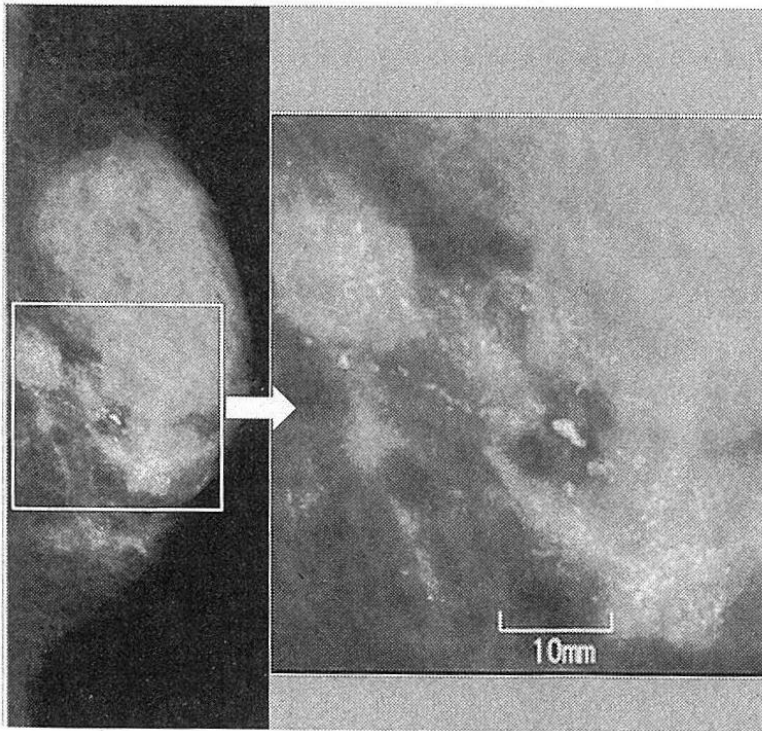
**A** 手術後の傷の治り具合に合わせて下着を使い分けていきます。

手術直後は、傷口保護の目的で、着脱しやすい前あきタイプでワイヤの入っていない柔らかく傷口を広く覆うものがお勧めです。退院して傷が落ち着いてきたら、自分の乳房サイズや傷の大きさに合わせて、乳がん術後専用の補整下着が使えます。パッドが安定するように下着の内側にポケットが付いていて、パッドも乳房の形に合わせて調節できます。また、パッドが装着できる水着や、温泉で着用したまま入浴が認められた入浴着(バスタイムカバー)もあります。

これらの補整下着は市販や通販で購入できます。おしゃれを楽しみながら、前向きに闘病生活を乗り切ってください。

(同外来看護師、西村浄美)

第2、4木曜日掲載



非浸潤性乳管がんのマンモグラフィ。白い部分が石灰化しており、がんの範囲